

令和3年度 看護学部2学年シラバス（後期）

<後期>

英語Ⅱ 後期 A	…P 1～
〃 後期 B	…P 8～
病態診断治療学	…P 14～
看護技術とアセスメントⅢ	…P 20～
保健情報演習	…P 26～
小児看護学Ⅰ	…P 33～
老年看護学Ⅰ	…P 39～
公衆衛生看護学Ⅰ	…P 45～
地域看護学実習	…P 51～

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 II 後期 A グループ（English II）

教員名：中山 仁

開講年次：2年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

- 学習目標： 1) 基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。
2) 習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。
3) 医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。
4) 英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。
5) 問題意識を持って英文を読むことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	－	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

参考書：1) 『ウィズダム英和辞典』(三省堂)、『ジーニアス英和辞典』(大修館)

2) 語句の説明と用例が充実した辞書アプリ(iOS版)：ウィズダム英和・和英辞典(第4版/第3版)(物書堂)

3) 一般語でより豊富な語彙を求める場合：『リーダーズ英和辞典』(研究社)

4) 専門用語の理解のために：『ステッドマン医学大辞典』(メジカルビュー社)

成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備をして授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	医療・看護に関する記事(1)	リスニング・リーディング・発音練習
第2回	医療・看護に関する記事(2)	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事(3)	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事(4)	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事(5)	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事(6)	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事(7)	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事(8)	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事(9)	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事(10)	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事(11)	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事(12)	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事(13)	リスニング・リーディング・発音練習

第 14 回	医療・看護に関する記事 (14)	リスニング・リーディング・発音練習
第 15 回	医療・看護に関する記事 (15)	まとめ

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 II 後期 B グループ（English II）

教員名：荒 哲

開講年次：2年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：医療英語に関する記事などを読んで、主に看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療等に関連する語彙・表現の学習、(2)主にリーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して最近の医療事情について理解を深める。その他、史実を通して人権や生命倫理についての理解を深め、医療における人権や生命倫理について考える姿勢を養う。

なお、学習進度に応じて授業スケジュールを変更することがある。

- 学習目標： 1) 基本的な医学用語等を正しく発音し、その意味が理解できる。
2) 習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。
3) 英文記事のキーワードを読み取ることができる。
4) 英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。
5) 問題意識を持って英文を読むことができる。
6) 英文を通して私たちが日々直面する生命倫理について考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

参考書：1) 一般語でより豊富な語彙を求める場合：『リーダーズ英和辞典』（研究社）

2) 専門用語の理解のために：『ステッドマン医学大辞典』（メジカルビュー社）

成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他(メッセージ等):日記の英語は意外に難しいものです。医学英語とは異なりますが、この授業を通して戦争の記憶や人種差別、または生命倫理について学んでほしいと思います。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業中の約束事など
第2回	医療・看護に関する記事(1)	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事(2)	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事(3)	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事(4)	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事(5)	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事(6)	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事(7)	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事(8)	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事(9)	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事(10)	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事(11)	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事(12)	リスニング・リーディング・発音練習
第14回	医療・看護に関する記事(13)	リスニング・リーディング・発音練習
第15回	医療・看護に関する記事(14)	まとめ

※適宜、人権や生命倫理に関する読み物を挿入する予定。

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名 (英語名称含む) : 病態診断治療学【看護2】 (Pathophysiology, including diagnosis and treatment)

教員名： 太田昌一郎

開講年次： 2年次, 前学期：2021年度 後期 , 必修/選択：必須

授業形態：講義 , 単位数：2.0単位 , 時間数：45時間

概要：循環器系、消化器系、代謝内分泌系、腎泌尿器系などの臓器や組織における病態と診断、治療、予後などを学習し、それぞれの疾患の特性を理解する。治療については、薬物療法、外科的治療、緩和ケアにも言及する。基礎医学と看護専門科目への橋渡しとなるような内容に心がける。

学習目標：血液・造血器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、免疫アレルギー疾患、呼吸器疾患、感染症、神経系疾患の代表的な疾患について、

- 1) 主要症状と兆候を列挙し、その病態を説明できる
- 2) 主な診断方法と治療法を説明できる
- 3) 各疾患の予後を理解し、看護の関わり方を理解説明できる

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが単

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		位の認定には関係ない
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の一部として実践

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		できることが単位認定の要件である
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会はない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特に用いない 教員作成の資料、プレゼンテーションを用いる

参考書：加園恵三著 症例人間病態論 京都廣川書店、加園恵三、太田昌一郎共著 症例人間病態論 Vol.2 京都廣川書店

成績評価方法：期末筆記試験、理解度を確認するため、小テストを随時施行することがある

その他(メッセージ等)：解剖学、病理学を理解していることを前提に講義を行う。近年の国家試験で取り上げられた項目については、随時講義内で触れる。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	病態を学ぶ前に	オリエンテーション、疾患の概念、診断学の概念につ

	主な検査値の読み方	いて 血液検査、貧血の診断、炎症性疾患、主な生化学検査の項目について
第2回	血液・造血器疾患	血液検査、貧血の診断、炎症性疾患、主な生化学検査の項目について、血液悪性疾患、線溶凝固異常、など
第3回	呼吸器疾患	検査法、閉塞性・拘束性肺疾患、呼吸器感染症 肺腫瘍、気管支喘息、胸膜疾患など
第4回	循環器疾患(1)	基礎的事項、心不全、不整脈、先天性心疾患
第5回	循環器疾患(2)	弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、心膜疾患、血圧異常、脈管疾患、ショック
第6回	消化器疾患	分類、主な症候、上部消化管良性疾患、悪性腫瘍、特発性炎症性大腸炎、下部消化管悪性腫瘍など
第7回	肝臓・胆道・膵臓疾患	主な症候、肝炎の原因と病態、肝硬変、肝細胞がん、劇症肝炎、肝臓疾患続き、薬物療法、肝移植 胆石症、急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、など
第8回	腎・泌尿器疾患	腎炎の分類、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、慢性腎不全、急性腎不全、泌尿器科疾患、良性疾患、悪性腫瘍、排泄ケアなど など
第9回	代謝・栄養疾患	生活習慣病とは、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、痛風、腫瘍崩壊症候群など
第10回	内分泌疾患	視床・下垂体系、下垂体・性腺系、ネガティブフィードバックなど調整機構、甲状腺疾患、二次性高血圧、カルシウム代謝異常など
第11回	感染症	法規、予防、治療薬 HIV 感染症、ウイルス感染症、原虫・寄生虫疾患、真菌感染症、クラミジア、リケッチアなど
第12回	膠原病、アレルギー疾患	薬剤アレルギー、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、蕁麻疹、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎など
第13回	精神・神経疾患	うつ病、統合失調症、薬物依存症、認知症、パーキンソン病、てんかんなど
第14回	脳血管障害、移植医療	脳梗塞、脳出血、各種治療、臓器移植、骨髄移植など
第15回	緩和ケア	痛みの生理学、オピオイドの使い方、WHO ラダー、ホスピスなど

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護技術とアセスメントⅢ（Nursing skills and assessment Ⅲ）

教員名：林紋美 川島理恵 丸山育子 蓬田美保 他

開講年次：2年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：3単位 ， 時間数：45時間

概要：本科目は、「看護技術アセスメントⅠ」および「看護技術とアセスメントⅡ」の学習を元に、さらに学びを積み上げていきます。身体の中はみることはできませんが、フィジカルイグザミネーションを用いて、身体の中で起こっていることを推察するための情報を得ていきます。その基本を学びます。また、静脈内採血・薬物治療を受ける方の安全を守るための支援方法を学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 脳神経の障害が人間の生活に与える影響について説明することができる。
2. 脳神経に関するフィジカルイグザミネーションの基本を実践することができる。
4. 呼吸器に関するフィジカルイグザミネーションの基本を実践することができる。
5. 呼吸障害のある方の呼吸を整えるための基本的な技術を実践することができる。
6. 循環器に関するフィジカルイグザミネーションの基本を実践することができる。
7. 看護師が実施する静脈内注射の範囲を踏まえ、基本的な技術を実践することが出来る。
8. 薬物療法を受ける方に関わる看護師の役割について説明することができる。
9. 看護師が実施する注射法の範囲を踏まえ、基本的な技術を実践することが出来る。
10. 意識レベルのアセスメントの基本を実践することが出来る。
11. 一時救命処置の基本を実践することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		用できることが単位認定の要件である
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：テキストの指定はありません。

参考書：適宜紹介します。

成績評価方法：評価配分は、筆記試験(45%)、実技試験(45%)、授業への取り組み(10%)を基本としますが、最終的に担当する全教員で検討して総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：見えないことが、ある手技によって見えてくることのおもしろさを感じ、手技を獲得してほしいと思います。これから出会う方々の役にきっと立ちます。

単元の順序は、状況に応じて変更になることもあります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1・2回	呼吸その2	呼吸運動 呼気介助
第3～5回	呼吸その2	酸素化 換気障害
第6～8回	呼吸その2	呼吸音 酸素ボンベの取り扱い
第9・10回	呼吸その2	ネブライザー 気道内吸引
第11～13回	呼吸その2	呼吸のアセスメントと看護(グループワーク)
第14～16回	脳神経	物を見る(第2・3・4・6脳神経)
第17～19回	検査	静脈血採血
第20～23回	脳神経	顔や口腔・鼻腔の感覚、表情をつくる(第5・7脳神経)
第24～26回	検査	静脈血採血
第27～29回	脳神経	食べる(第9・10・12脳神経)
第30・31回	薬物	薬物療法を受ける対象に関わる看護者の役割 経口薬を内服する対象に対する看護者の役割
第32・33回	薬物	注射法(注射法の特徴と注射薬の準備) 注射法(皮下注射と筋肉内注射)
第34・35回	薬物	静脈内注射の実施と管理
第36・37回	薬物	静脈内注射の実施と管理の実際
第38・39回	循環その2	問診、視診
第40・41回	循環その2	心音、事例展開
第42・43回	救命救急	救命の連鎖
第44・45回	救命救急	胸骨圧迫の基本など

概要：看護の基本となる科目

区分名：論理的思考力を培う

科目名（英語名称含む）：保健情報演習（Biostatistics Lab）

教員名：後藤あや，（医）村上道夫

開講年次：2年次，学期：2021年度 後期，必修／選択：必修

授業形態：演習，単位数：2単位，時間数：30時間

概要：

情報学の演習は、統計学（1年後期）および疫学（2年前期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。ここでエビデンスとは、数値だけではなく、人々の声（文章）のデータも含まれます。

保健情報の演習では、実際にクラス内で教員が提示するトピックについてアンケート調査を行い、データを入力、分析、結果をまとめて発表し、さらには発表した結果が聞き手にどのように受け止められるかまで確認します。

学習目標：

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための基礎的な技術を身につける。

具体的目標

- 1) ヘルスリテラシーについて概説できる。
- 2) アンケートが作成できる。
- 3) データ入力ができる。
- 4) データの集計とクロス集計ができる。
- 5) 目的に応じた図表が作成できる。
- 6) リーフレットが作成できる。
- 7) 効果的な発表ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	— 修得の機会がない。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 ② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 ③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○ 講義に組み込まれているグループ演習に班員で協力して取り組む態度を評価する。
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○ 同上
4)	法令等の規範遵守	① 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 ② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	○ データを扱う基礎的知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
2. 生涯学習			
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。			
1)	自己啓発と自己鍛錬	① 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。 ③ 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動	△ グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。

			できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		

1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	① 感性を高める科目	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		② 倫理性を高める科目		
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない。
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメ		

			ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明でき		

			る。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

授業内容(学習項目)

※3時間分を1回とする。(計30時間)

回数	項目	内容(キーワード等)
1	演習の説明、ヘルスリテラシー概論・演習、アンケート回答	リテラシー、ニューメラシー、リーダビリティ、CCI
2	アンケートのテーマについて文献検索、アンケート作成	Word、医学中央雑誌
3	データ分析計画立案、単純集計、クロス集計、推定、検定	Excel、OpenEpi
4	テキストマイニング、関連資料収集	KH Coder、医学中央雑誌
5	学会形式の抄録作成	Word
6	学会形式の抄録改訂、一般向けリーフレット作成	
7	一般向けリーフレット作成	PowerPoint
8	発表、お互いのリーフレット評価	
9	評価アンケートの集計、リーフレット改訂	
10	まとめ	

テキスト：

※配布資料を中心に演習を進めます。

参考書：

対馬栄輝（著）. SPSS で学ぶ医療系データ解析：分析内容の理解と手順解説、バランスのとれた医療統計入門. 東京図書.（コンピューター室に設置）

中畠洋. 初学者のための質的研究 26 の教え. 医学書院.

成績評価方法：

演習への取り組み（70%）と出席・提出物（30%）で総合的に評価します。講義時間内で終わらなかった作業は、指定の日時までに提出してください。

その他（メッセージ等）：

シリーズとしている3つの講義どれにおいても、演習への積極的な参加を求めます。講義を聞くだけでなく、自分で考え、使うことで、知識と技術は定着します。

※各自4GB程度のUSBメモリーを用意しておくこと。

特別講師（予定）：弓屋結（広島大学）

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：小児看護学Ⅰ（Nursing Care for Children）

教員名：和田久美子，古溝陽子，鈴木学爾，その他

開講年次：2年次，学期：2021年度 後期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：新生児期から思春期にある対象者とその家族の特徴を理解し、生活の援助に必要な知識、技術を学習する。また、子どもとその家族が置かれている状況を踏まえて、各ライフステージにおける発達課題や健康上の課題について学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期という成長発達の特徴について、身体的および心理・社会的視点から説明できる。
2. 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の特徴を健康と生活の視点から説明できる。
3. 子どもを取り巻く社会環境を説明できる。
4. 子どもの生活援助方法を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会はあるが、 単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：随時提示する。

参考書：随時提示する。

成績評価方法：課題、試験等を合わせて評価する。

その他（メッセージ等）：「心理学」、「母性看護学」等で学んだ、子どもに関する知識について復習して臨んで下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	小児看護の理念	子どもの健康、小児看護の役割、子どもの権利
第2回	子どもと家族の環境	子どもを取り巻く社会
第3回	子どもの成長発達	成長発達に影響する要因、成長発達の評価
第4回	新生児・乳児期の成長発達と生活	形態・機能的側面の成長発達, 愛着, 認知発達 食事、睡眠、排泄、清潔、活動、健康上の課題
第5回	新生児・乳児期の成長発達と生活	
第6回	新生児・乳児期の成長発達と生活	
第7回	幼児期の成長発達と生活	形態・機能的側面の成長発達, 認知・自我の発達, 社会性の発達、食事、睡眠、排泄、清潔、活動、健康上の課題
第8回	幼児期の成長発達と生活	
第9回	幼児期の成長発達と生活	
第10回	学童期・思春期の成長発達と生活	第二次性徴, 認知発達、自己同一性, 対人関係の変化、健康上の課題
第11回	学童期・思春期の成長発達と生活	
第12回	学童期・思春期の成長発達と生活	
第13回	子どもの成長発達(演習)	成長発達の評価
第14回	子どもの成長発達(演習)	
第15回	子どもの成長発達(演習)	

区分名： 看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：老年看護学Ⅰ（Gerontological NursingⅠ）

教員名：齋藤史子，坂本祐子，佐々木千佳，杉本幸子

開講年次：2年次，学 期：2021年度後期 ， 必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：高齢者の看護に必要な概念や理論を学ぶ。また，高齢者の特徴や生活機能を踏まえた基本的な看護の知識と技術について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 老年期の身体的・精神的・社会的・霊的側面における特徴を説明できる。
2. 加齢変化が生活機能へ及ぼす影響を説明できる。
3. 高齢者の生活機能を支える看護実践とその評価に必要な知識を説明できる。
4. 高齢者看護に活用できる理論や概念について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単

				位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△
				修得の機会があるが、

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		単位認定に関係ない
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

1. 北川 公子，他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版，医学書院
2. 鳥羽 研二，他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，第5版。
医学書院

参考書：

1. 山田 律子編：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第4版，
医学書院

成績評価方法：全講義数のうち3分の2以上出席した学生を対象に筆記試験を行う。

その他（メッセージ等）：

老いを生きる高齢者を支える老年看護とはどういうことかを学びます。超高齢社会の現況や権利擁護、身体的・心理的・社会的側面の変化などを踏まえ、老年看護の役割をしっかりと学び、3年次に履修する老年看護学Ⅱ、老年看護実習へ繋げて行きましょう。

3年次生「老年看護学実習」と並行開講のため教員への質問は、メールを活用してください（ryoyo@fmu.ac.jp）。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	老いるということ	加齢と老化、身体的・心理的・社会的側面の変化 高齢者の定義、発達課題、スピリチュアルティ
第2回	超高齢社会の現況	超高齢社会、家族構成の変化、高齢者の健康 高齢者の死亡、暮らし
第3回	老年看護の概念	老年看護の役割、老年看護に求められるもの、 老年看護活動の特、 ICF、ストレングス、コンフォート
第4回	老年看護に活用できる 概念・理論	
第5回	高齢社会における保健 医療福祉の動向	保健医療福祉制度の動向、介護保険制度
第6回	高齢者のヘルスアセス メント①	ヘルスアセスメントの基本 心理・社会的アセスメント、環境、生活史
第7回	高齢者のヘルスアセス メント②	身体に加齢変化
第8回		
第9回		
第10回	高齢者のヘルスアセス メント③	CGA
第11回	代表的な老年症候群	老年症候群とは、フレイル、サルコペニア
第12回		
第13回	高齢者の権利擁護	高齢者に対するスティグマと差別、高齢者虐待 身体拘束、制度
第14回		
第15回		

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：公衆衛生看護学Ⅰ（Public Health NursingⅠ）

教員名：古戸順子、秦暁子、阿久津和子、鹿俣律子

開講年次：2年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：講義演習 ， 単位数：3単位 ， 時間数：45時間

概要：地域社会で生活している個人・家族・集団・組織の人々の健康や生活の質の向上をめざすために、保健師活動で用いられる健康相談、健康教育、家庭訪問、健康診査及び保健指導等の基本的な対人支援技術について学習する
保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標（一般）：

1. 基本的な対人支援技術の基礎となる理論やモデルを学ぶ
2. 保健師活動で用いられる基本的な対人支援技術について理解できる

学習目標（行動）：

1. 基本的な対人支援技術の基礎となる理論やモデルについて説明できる
2. 対人支援技術の活用方法、手順、留意点について説明できる
3. 演習のグループ活動では、他のメンバーと議論を行ない、協力して課題を達成することができる
4. 事前と事後の自己学習を行ない、主体的な態度で参加することができる

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：標美奈子他：標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院
 標美奈子他：標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院
 標美奈子他：標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院

参考書：適宜指示する

成績評価方法：出席状況・講義演習への参加態度（20%）、筆記試験（50%）、課題提出物（30%）による総合評価

その他（メッセージ等）：対象にとってより質の高い生活を過ごせるために基本的な支援方法を習得しましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1-3 回	公衆衛生看護活動における基本理念	公衆衛生看護活動の考え方・目的、対象の理解
第 4-6 回	公衆衛生看護活動における保健指導	保健指導の目的、技術
第 7-9 回	健康相談・健康診査の展開	健康相談・健康教育の目的・対象・方法、援助者の基本姿勢、面接技術
第 10-12 回	健康教育の展開①	健康教育の目的・対象・方法
第 13-21 回	健康教育の展開②	企画立案
第 22-25 回	健康教育の展開③	媒体作成
第 26-27 回	健康教育の展開④	健康教育の実施（模擬）
第 28 回	健康教育の展開⑤	評価
第 29-31 回	家庭訪問の展開①	家庭訪問の目的・対象・方法
第 32-34 回	家庭訪問の展開②	事例のアセスメント
第 35 回	家庭訪問の展開③	家庭訪問技術
第 36-42 回	家庭訪問の展開④	家庭訪問の実施（模擬）
第 43-45 回	まとめ	

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：地域看護学実習（Community Health Nursing Practice）

教員名：阿久津和子、高橋香子、高瀬佳苗、古戸順子、秦暁子、鹿俣律子

開講年次：2年次，学 期：2021年度 後期 ，必修

授業形態：実習 ，単位数：1単位 ，時間数：45時間

概要： 地域看護学実習では、地域で生活する人々の健康問題や課題を把握し、その解決を図る保健師活動の実際やその意義について理解するために保健所を中心とした実習を行う。また、保健師活動の実際を理解し、その意義について考える。保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 地域で生活する人々の健康問題や課題について理解する。
- 2) 保健所（保健福祉事務所）や管内市町村における保健師活動の実際について理解する。
- 3) 保健師活動の意義について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要
		②	看護の実践		

	職者	③	看護を統合する科目		件である
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	① 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	① 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		② 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③ 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	① 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		② 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

成績評価方法：出席日数（20％）、日々の学びの内容（25％）、実習態度（15％）、レポート（40％）による総合的評価

その他（メッセージ等）：地域看護学Ⅰや地域看護学Ⅱの授業内容を関連づけながら学びましょう。実習施設によっては、宿泊する必要があります。

授業内容(学習項目)

1) 実施方法
・保健所を中心として1週間（5日間）の実習を行う。
・3～8人を1つのグループとして各施設で実習を行う。
2) 実習内容
・保健所（保健福祉事務所）や管内市町村の保健師活動への参加を通じて、実習目標に掲げた内容を学習する